



月2回刊=1595号
2022年1月30日 発行
発行日 毎月15日30日
発行所
盛岡市内丸10番1号
岩手県庁内
岩手県職員労働組合
印刷所
盛岡市上田二丁目17-4
有限会社 ジョー印刷企画
一部 40円
組合員購読料は組合費に含む

2022 自治労県本部春闘討論集会

賃金・職場課題改善に向け22春闘に結集を =全組合員が「参加する春闘」で要求前進めざす=



▲自治労県本部2022春闘討論集会のようす



▲県職労拡大闘争委員会・支部代表者会議のようす

1月15日、県本部春闘討論集会が盛岡市内で開催された。春闘は、労働者が団結して社会全体の賃金相場の改善を実現させ、経済を好循環としていく社会的意義を有しており、そのために労働組合が連帯して春闘に取り組む必要があることを共有。21確定闘争から続く継続課題と職場改善に向けて春闘から要求交渉を進めていくことを意思統一した。

開会に当たり、伊藤裕一県本部委員長が「春闘で要求をスタートさせ、確定期に確実に改善させるよう、継続課題や職場点検で明らかとなった課題をもとに春闘要求を確立し、要求書提出・交渉展開を」とあいさつ。基調講演として、月刊労働組合元編集長・松上隆明さんが「春闘の今日的意義と課題」と題して講演。日

本経済は賃下げと消費縮小の悪循環が20年以上も続き、コロナ禍で更に深刻化した。これまでの非正規労働者の増大、企業における昇給抑制・成果主義賃金の導入、公務職場におけるマイナズ人勧など、賃金の削減が根本原因である。若年層は低賃金のままである一方、高齢層は賃金削減を続けることが問題と指摘。そのうえ

で、「資本主義社会である以上、労働者が歯止めをかなければ賃金削減が続く。春闘は労働力の安売りをさせず、社会的な賃金相場を改善していく運動であり、労働組合が連帯して取り組む必要がある、春闘での運動強化を」と訴えた。

その後、県本部及川書記長から、春闘アンケート結果をもとに賃金引上げ月額13,000円とすること、年齢別の到達水準の確保に向け昇給・昇格運用改善、段階的定年延長を見据えた改善要求、会計年度任用職員の処遇改善などを柱とした春闘方針の提起があった。



▲講演する松上隆明さん

課題山積のままの民間委託は容認できないとし、再交渉を進めると説明。闘争

現業評議会では、秋の現業統一闘争において、長年にわたり不補充となっていた各振興局土木部の運転技士の新規補充を重点課題とし、交渉を重ねてきた。これまで当局は、各振興局土木部配置の運転技士の長期的な配置ビジョンを県土整備部と協議中とし、補充の

方向性について示さない一方で、再任用満期を迎える運転技士の補充をせず、会計年度任用職員を充てる対応に終始していた。直近では定数減、遠野土木に至っては正規の運転技士がゼロという事態に陥っていた。こうした中、県当局は、

土木部 運転技士新規補充へ 運転技士配置ビジョンの課題は継続

1月14日に遠野土木の正規での運転技士の補充を行うべく、採用募集に踏み切った。土木部運転技士の正規での補充は長年実現できておらず、現業評議会はもとより、職場総意の要望が実現する形となった。

もともと、これまでの間当局が主張している各振興局土木部の運転技士の配置ビジョンは結果として示されず、継続交渉課題となっている。当局は、再任用希望者には最大限配慮の姿勢であるが、再任用満期時には再度問題が生じる。

今回の正規での運転技士の補充は県職労運動の大きな成果であり、これを皮切りに継続した新規補充、各公所での運転技士の複数配置の実現に向け、今後も粘り強く交渉を展開していく。

十分な体制を確保することが長期的視点では大事ではないか▼公務体制を巡る様々な教訓は数知れない。その都度職員は頑張りで何とか乗り越えてきた。しかし度重なる脅威は乗り越えられないのは明らか。人間らしい生き方は無理を繰り返しただけでは得られない。そのためにも職場改善の多くの声が必要となる。

県職連合第31回・県職労第127回臨時大会
日時 2022年3月5日(土) 13時
場所 自治労県本部大会議室

奥州市議会議員選挙(2月27日告示3月6日投票)
佐々木ゆみ子さんを推薦
奥州市は、来たる奥州市議会議員選に当たり「佐々木ゆみ子(友美子)」(58歳・新人・無所属・岩教組出身)さんを推薦決定した。佐々木さんは岩教組役員や連合岩手副事務局長を歴任。労働運動の経験を活かし、人と地域がやさしく「笑顔」でつながるまちづくりをモットーに、働く人たちが大切にされる社会、寄り添い・助け合える福祉社会の実現など、働く者・生活者視点での市政の実現に取り組む政策を掲げている。皆様の御支持をお願いする。

佐々木 ゆみこ
1月14日に遠野土木の正規での運転技士の補充を行うべく、採用募集に踏み切った。土木部運転技士の正規での補充は長年実現できておらず、現業評議会はもとより、職場総意の要望が実現する形となった。

新年早々慌ただしい日々が続いている。今年こそ平穏無事な一年を願っているが、世間はこれを許さない。2年前の状況からしたら今のコロナ感染拡大は想像を絶した状況に違いない▼日本から遙か遠いトンガでの海底噴火の影響で岩手でも津波警報が。漁業被害も顕著に。特に、津波警報は間もなく思い出す。それだけ私たちの暮らしの脅威は続いている。エッセンシャルワーカーの必要性が叫ばれて久しいが、それぞれの努力だけでは限界がある▼組織力を高める必要があるとし、当局は職員に檄を飛ばしているが、檄を飛ばしただけではモチベーションの維持にはつながらない。組織力を高めるためには、少ない人員で多くの成果を求めるのではなく、多くの人員で十分な体制を確保することが長期的視点では大事ではないか▼公務体制を巡る様々な教訓は数知れない。その都度職員は頑張りで何とか乗り越えてきた。しかし度重なる脅威は乗り越えられないのは明らか。人間らしい生き方は無理を繰り返しただけでは得られない。そのためにも職場改善の多くの声が必要となる。

久慈支部

粘り強く要求・交渉重ね…
公舎等の改善が実現

県北局長／経営企画部長要求書提出・交渉

久慈支部では、今年度も組合員アンケートを実施し、その結果をもとに「支部独自要求書」を作成。10月26

日に高橋県北局長及び佐々木経営企画部長へ要求書を提出し、2022年1月18日に要求に対する回答に關

し、交渉を行った。今年度は、コロナ感染予防のため、支部から小野寺光文支部長（水産部分会）と多田野書記長（林務部分会）が出席をした。

局長要求書は、欠員解消と適正な人員配置、会計年度任用職員の任用数と勤務時間改善（フルタイム化）、超過勤務手当予算の配分を柱とし、経営企画部長要求書は庁舎の修繕、庁舎の室温管理、公舎の計画的な修繕等が柱。

高橋局長から「現場の声は我々にとっても重要だと思っている。いろいろとまた声を聞かせてほしい」との話があった。



▲要求書を手渡す小野寺久慈支部長（左）



▲久慈支部独自交渉の様子

支部から、要求書の中でも庁舎・公舎の「ネット環境の充実」と「公舎、各部屋へのエアコンの設置」を強く要望し、佐々木経営企画部長から「要求内容を管財課と行政経営推進課に伝える」との回答を得た。さらに、交渉の結果、長年要求していた小久慈公舎駐車場の白線と天神堂公舎玄関へのサーチライトの設置が実現した。管財課の予算措置が困難であり、経営企画部で工夫して対処したとのことで、支部段階での要求・交渉が実った形だ。

農研センターでは、暖房費節約のため、大会議室が使えない状況となっており、予算が足りていない現状も聞かされている。また、今年から出退勤管理システムが改修されたが、事前に説明が欲しかったとの声も聞かれ、当局への不満も募っている。

青年婦人部

独自交渉報告会を実施

11月25日の青年婦人部独自交渉を終え、各支部では

交渉内容の報告会及び意見交換会を実施している。こ

いるものである。

報告会に参加した青年婦人部員からは「8年ぶりの意見交換ということにビックリしたが、自分たちの実態を伝えられることができ

た実態が青年婦人部員のアンケートなどの協力を経て実現したものであることから青婦部員にフィードバックし、来年度以降より深い議論ができるよう開催しているものである。

働きたいとは思わない」と言った声も聞かれた。

来年度以降も青年婦人部で職場改善に向け、より学習を深め、お互いの職場について考え合い、取り組みを継続していく。今後とも青年婦人部員の協力をお願いする。



▲北上支部（農研センター）での報告会のようす



▲一関支部での報告会のようす

報告会に参加した青年婦人部員からは「8年ぶりの意見交換ということにビックリしたが、自分たちの実態を伝えられることができ

た実態が青年婦人部員のアンケートなどの協力を経て実現したものであることから青婦部員にフィードバックし、来年度以降より深い議論ができるよう開催しているものである。

働きたいとは思わない」と言った声も聞かれた。

来年度以降も青年婦人部で職場改善に向け、より学習を深め、お互いの職場について考え合い、取り組みを継続していく。今後とも青年婦人部員の協力をお願いする。

2022年 各支部「旗開き」で始動

県職労各支部は恒例の躍進「旗開き」で2022年の活動をスタートさせた。また、胆江支部でも1月6日（木）に盛大に開催された。22春闘勝利、組織拡大に向けた決意を固めた。22春闘勝利、組織拡大に向けた決意を固めた。



▲花巻支部旗開き（遠野合庁）（1/5）



▲久慈支部旗開き（1/5）



▲花巻支部旗開き（1/6）



▲一関支部旗開き（1/6）



▲盛岡支部旗開き（1/7）



▲県庁支部旗開き（1/11）



▲気仙支部旗開き（1/12）



▲釜石支部旗開き（1/12）



▲二戸支部旗開き（1/12）



▲宮古支部旗開き（1/13）



▲北上支部旗開き（1/19）

今回は、声を出して要求する大きさを改めて実感した交渉であった。久慈支部は、今後も組合

員の声を大事にし、更なる改善に向けて取り組みを進めていく。

第26回参議院全国比例区選挙
自治労組織内候補予定者

おにき
鬼木まこと

全力で応援しよう!

自治労は、第26回参議院選挙の全国比例区に「鬼木まこと」さんの擁立を決定しました。

LINE公式アカウントの「おにき」に
なってください!